

ふれあい

8月の資源回収は お休み です。



厳しい日射しの下、周陽青雲会の人達が、コミュニティ広場横にある畝で育てた花の苗、箱分け作業をしました。

この苗は地区外の各公民館や、地区内の各自治会、子ども会等へと貢われていきました。私たちの住んでいるまち“しゅうよう”が、みんなの愛情を受けて育った花で、いっぱいになるといいですね。

この他にも、孝田町新横浜育苗グループの方々も、今年育てられました。
ご尽力いただいている皆さん、ありがとうございます。

記事と情報は
周陽公民館へ
☎ 28-6515
メールアドレス shuyo-kofcity.
shunan.yamaguchi.jp

災害に強いまちづくりをめざして..

=ふれあいのまち周陽=

第一回

周陽地区防災防犯連絡協議会

開催される

6・28

中学生ボランティアリーダー

「にこにこ研修」

開催される

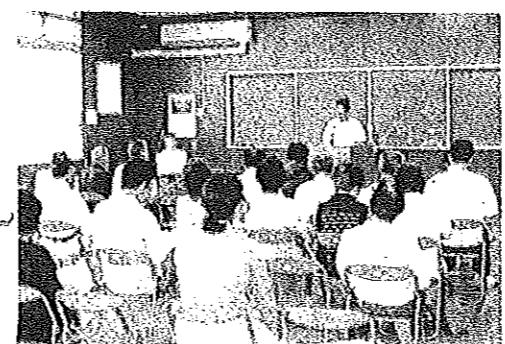
9時半より各自治会代表の防災防犯部員、コミュニティ各団体長他、総勢32名出席のもと 今年度初めての総会が行われました。

水谷館長からの『災害における市民力の大切さ』のお話もあり、皆さんは真剣に耳を傾けていました。

その後、小雨でしたが公民館前の広場で周南東消防署の方の指導による水消火器を使っての消火訓練がありました。消火訓練では32名の他にも

《中学生ボランティアリーダーにこにこ研修》に参加していた中学生も一緒に臨みました。

災害に備える自治会の防災について理解を深める第一歩になりました。



中学生ボランティアリーダー育成研修の開講式が、8名の参加を得て行われました。

非常食の試食をし、人間いきいき研究会の森法房先生による「君がいないと始まらない」という講話があり和やかな雰囲気の中、子ども達も楽しそうに聞いていました。

これから、地域のいろいろな場所でボランティアリーダーとして活躍してくれます。みなさん温かい応援よろしくお願いしますね。



案内

一泊二日『避難生活体験』

家族と隣近所のきずなが基の町づくりに！

今回「避難生活体験」を実施することで、家族は元より、隣近所の人と人との「つながり」の大切さを改めて感じました。

このような体験を、隣近所誘い合って一度参加していただけたように、10月以降、自治会毎へご案内します。

公民館に宿泊していただく一泊二日のプログラムは、参加される方の状況に応じた内容と時間で計画します。

安心して暮らせるまちづくりに、きっと役立つと思いますので、どうぞ奮ってご参加ください。

★災害に強い町は

災害「だけ」に強い町ではない

災害は必ず起こる
人は一人で生きられない

いざという時に一番頼れる
普段から顔の見える関係

自分たちの命は自分たちで守る

「人と人のつながり」が心と命を守る

藤井さんの指導で、救急救命講習に移り、止血法、骨折の処置、患者の搬送法、心停止時の心臓マッサージ、人工呼吸の方法、AED（心臓に電気ショックを与える）の使用方法等を教えていただきました。家族が倒れた場合にあわてず対処できるよう、災害宿泊訓練に参加されて、勉強してみる事をお勧めします。救急車が来るまでの7分、この時間が生死の分かれ目なのです。

今回、「避難生活体験」に参加された皆さん、普段生活とは比べ様もない体験をされたことでしょう。ご苦労様でした。

また、次回からもより多くの皆さんに参加され、地域が少しでも災害に強い町になれば良いと願っています。

7/5・6「避難生活体験」開催される

周陽地区家庭応援プロジェクト

シェイ・クラシック運動公園前
自治会長 関 将秀

今回模擬ではあります、避難生活を事前に体験できることは大変有意義でした。特に救急救命法については、人工呼吸の方法、AEDの使い方、身近な物が包帯や担架の代用になることがわかりやすく説明され、参考になりました。当自治会でも防災について考えるきっかけになれば良いと思います。

避難生活体験に参加した。二十数名中、女性五名の初対面の多いグループ。非常食の夕食。ジャンケンで相手の名前を知り、「ようしき」と握手。夢中になり大笑い。輪が出来、一つになった。救急救命「AED」等を学ぶ。水の大切さ、電気のありがたさを実感、眠れぬ夜を過ごした。十分の一以下の体験だったが、皆何かを感じたはず。あなたも体験してみませんか。

災害宿泊訓練を終えて

コロコロニティ企画調整部長 福永和男

ある程度は覚悟をして行きましたが、大変でした。（夜が…）会場について、最初に「食事をして下さい」と、非常食を渡され、湯を入れて待つこと十五分、まずまずの味。暫くしてお互いの名前、顔を覚えるために、ゲーム等をしました。

藤井さんの指導で、救急救命講習に移り、止血法、骨折の処置、患者の搬送法、心停止時の心臓マッサージ、人工呼吸の方法、AED（心臓に電気ショックを与える）の使用方法等を教えていただきました。家族が倒れた場合にあわてず対処できるよう、災害宿泊訓練に参加されて、勉強してみる事をお勧めします。救急車が来るまでの7分、この時間が生死の分かれ目なのです。

今回、「避難生活体験」に参加された皆さん、普段生活とは比べ様もない体験をされたことでしょう。ご苦労様でした。

また、次回からもより多くの皆さんに参加され、地域が少しでも災害に強い町になれば良いと願っています。

7月5、6日、大災害を想定しての一泊二日「避難生活体験」が実施されました。31名の参加者が模擬被災者となり、電気のない、備蓄水道水での不自由な生活を体験しました。

体験を終えての感想をご紹介します。

今回の体験は指導者への研修会のような内容となりました。救急救命法などは身近なテーマとして関心を持たれた様に思います。が、一日目の講座は、十月からの一般参加者にとっては重荷になります。子どもからお年よりまでの参加であれば、単にライフラインが途切れた状況下での避難体験だけでも良いのではないか。（講座はせめても簡単に救急救命法、消火器の使い方程度）

縁ヶ丘自治会長 加藤洋

周南市に大規模な自然災害が発生したとしたら…。

何処に避難をすれば良いのか？避難生活に必要なものは何か？離れ離れになった家族との連絡方法は？等々、突然の災害の対応について多くの疑問点があると思います。

今回の避難生活を体験して、こういった疑問点を解消し、災害時にこそ、他人との協調が大切であることを学びました。また、予期しない自然災害から家族を守り、そして、多くの人を助ける為にも、日頃からの災害に対する知識、危機管理を持つ事こそが重要であると改めて感じることができました。

植木新

避難生活を体験して

5日（日程）

- 18:30 夕食（非常食）
- 19:00 あいさつ
- 19:15 ゲーム（アフペイ）
- 20:00 救急救命法



お湯を入れて15分で、出来上がり

6日

- 22:00 就寝
- 6:00 起床
- 7:00 朝食
- 7:30 防災に学ぶ1（家庭と自治会の防災）
- 8:30 防災に学ぶ2（人のつながりの大切さ）
- 9:30 振り返り
- 10:00 解散



アフペイで仲間作り



おにぎり2つの朝食



防災について勉強中



救急救命の体験